

にのみ忽然として出現し来るもの可成多く存在するの事實之なり。

此著甚なる事實は去る大正十三年七月二十七日より、八月九日まで、予が信州北佐久郡教育會及び淺間山研究會の依頼に應じ、北佐久、小縣地方の植物を調査せし時に、殊に興味深く感ぜしを以て、是を會員に談話せしに、高橋貞吉氏は、翌大正十四年に、北佐久教育會誌に、北佐久植物と北支那植物との關係と題して予の談話を發表せられたるが、茲に尙詳細に述べんと欲す。

先づ上に述ぶるが如き分布をなすものに次の諸種あり、但し高山植物は概ね之を除く。

エゾマツ (<i>Picea jesoensis</i>)	テウセンマツ (<i>Pinus koraiensis</i>)
ムラサキモメンヅル (<i>Astragalus adsurgens</i>)	シャジクサウ (<i>Trifolium Lupinaster</i>)
ケシャウヤナギ (<i>Salix macrolepis</i>)	コエゾヤナギ (<i>Salix roridaeformis</i>)
ツキヌキサウ (<i>Triosteum sinuatum</i>)	ホソバセンダングサ (<i>Bidens parviflora</i>)
ヤマタバコ (<i>Cyathocephalum angustum</i>)	ヤマハマナス (<i>Rosa davurica</i>)
ワウグワ (<i>Thladiantha dubia</i>)	ヤヘガハカンバ (<i>Betula davurica</i>)
タウカンバ (<i>Betula chinensis</i>)	ミヤマハルガヤ (<i>Authoxanthum nipponicum</i>)
ミノスゲ (<i>Carex Meyeriana</i>)	フオーリーガヤ (<i>Avena callosa</i>)
タチリンドウ (<i>Gentiana detonsa</i>)	タデスミレ (<i>Viola Thibaudierii</i>)
テウセンコケモモ (<i>Oxycoccus microcarpus</i>)	エンビセンノウ (<i>Lychnis Wilfordii</i>)
ミヤマクサフヂ (<i>Vicia cracca</i> var. <i>marcophylla</i>)	
シナノナデシコ (<i>Dianthus senanensis</i>)	オソバルリトラノヲ (<i>Veronica Komarovii</i>)
オホバメドハギ (<i>Lespedeza daurica</i>)	ミヤマイヌワラビ (<i>Athyrium spinulosum</i>)
エゾキノヂ (<i>Polystichum Braunii</i>)	ヤマヒメワラビ (<i>Cystopteris sudetica</i>)
アヲチヤセンシダ (<i>Asplenium viride</i>)	シロウマワウギ (<i>Astragalus siroumensis</i>)
ウメザキサバノヲ屬 (<i>Callianthemum</i>)	タカネソモソ屬 (<i>Leiopoa</i>)

其他落葉松の如きも同地方の *Larix Gmelini* LEDEB. と異なるは寧ろ奇とする位なり、ドロノキ (*Populus Maximowiczii* HEMSLE.) も亦此中に入れて可ならん。

如上要素が獨り離れて本土中部に一群を成すは何故なるか、之を簡単に残留植物 (*Florula relicta*) として片付けてしまへば譯もないが、果して單に残留に過ぎざるか、今之を東西兩翼方面に於ける進行的分布の狀を考ふれば、中部地方の是等亦如何に考ふべきか大方の高教を仰がんと欲す。

Vertebraria に就て

小泉源一

古生植物代 (*Palaeophyticum*) の終なる二疊石炭紀には當時の南半球 Gondwana



Glossopteris (Vertebraria)

大陸に特有な二疊石炭紀南半球植物區系 (The antarctic Carboniferous or southern Flora) 一名 *Glossopteris* Flora 又名 *Gangamopteris* Flora なるものがあつた。

本植物區系の重要なる植物要素は *Glossopteris*, *Gangamopteris*, *Vertebraria* であつて、尙 *Phyllothea*, *Schizoneura*, *Noeggerathiopsis* の主要々素を有してゐるが、従來之等の植物は當時氷河の縦横に流れてゐた附近に生じてゐた事、丁度現今の新西蘭土の如き状態で、もあつたかと思はれてゐたが、最近 C. SCHUCHERT 氏や WHITE 氏 (Am. Jour. Sci. 5 ser. XXIV. 1932. p. 405) 等の考によると、丁度洪積世の氷河時代の如く、矢張り暖ひ間氷期なるものがあり、此期間に植物が繁茂したものであると云ふのである。

Vertebraria は *Glossopteris* の根莖であつて、最近 J. WALTON, R. WILSON 兩氏の研究 (Proc. Roy. Soc. Edinburgh 52. 2, p. 200. t. 1-2. 1932.) によれば、此莖は第二期肥大生長をやり射出髓を有し木部の假導管には有縁絞孔を有するにより、裸子植物なる事が明となつた、されば *Glossopteris* も *Gangamopteris* も共に羊齒狀種子植物である見當がついたわけである。

水 蘚 類 の 化 石

小 泉 源 一

一般蘚類の化石は石炭紀以來發見されてあるが、蘚類中でも下等の水蘚の化石は、従來第三紀にさへ見出されなかつたのは不審であると同時に、第四紀初の低温時代の産物であるから現今も主として高層沼野に繁殖するのではないかと考へられてゐたが、C. A. ARNOLD 氏は Greenland の Disko 島の白堊紀か古第三紀の地層から水蘚の化石を發見した。

白 瀧 櫻 と 緑 吉 野 櫻

小 泉 源 一

大和吉野の白瀧櫻は 濟州島のタンナヤマザクラ (予のエイシウザクラ) (*Prunus*